



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3324 号 2016.10.28 発行

認知症カフェ、全国へ くつろぎながら理解深める 産経新聞 2016年10月27日



くつろいだ雰囲気の中で認知症についての理解を深める認知症カフェ「フェローフィーリング」=東京都世田谷区

認知症の人や家族、医療や福祉の専門家らが集う「認知症カフェ」が全国に広がっている。くつろいだ雰囲気の中で交流を図り、認知症について正しく理解するのが目的だ。高齢化が進展する中、国も設立を後押ししており、認知症の人や家族が気軽に出かけられる場が増えつつある。(櫛田寿宏)

外出のきっかけ

10月上旬の午後。東京都世田谷区に住む女性(87)は同区内の高齢者施設で開催された認知症カフェ「フェローフィーリング」に初めて参加した。女性は軽度の認知症と診断されており、外出の機会が減っていることを心配した長女の夫(69)に付き添われてやってきた。

フェローフィーリングは、在宅介護家族の会「フェロー会」が昨年11月から月に1回程度開催。認知症の人や家族のほか、医師や民生委員、介護関係者ら約30人が集まる。参加費は1人500円だ。

この日は35人が参加し、バウムクーヘンとお茶を楽しみながら交流を深めた。健康運動指導士とともに、向き合った相手と異なる方の手を使うじゃんけんゲームも楽しみ、女性は「久しぶりに体を動かした。また来たい」と笑顔を見せた。

同会代表の高橋聡子さん(69)は、認知症の母親を12年間介護し看取(みと)った経験を持つ。「認知症と診断されると本人も家族も不安になる。病気に関する正しい知識を

学び、悩みを共有する場になれば」と語る。

自信を取り戻す 「認知症の人と家族の会栃木県支部」が宇都宮市で運営する「オレンジサロン石蔵」では、認知症の当事者がカフェの参加者に出す料理の盛りつけや配膳を担当。スタッフとして活躍している。

同支部代表の金沢林子さん(71)は「病気のため今までできていたことができなくなり自信を失う人もいる。少しでも自信を取り戻してもらえたら」と話す。

鍋パーティーやワインを楽しむ会を開き、介護をする

家族も楽しめる場を提供するカフェもある。

京都市伏見区の社会福祉法人同和園が運営する「カフェdeオレンジサロン」は、同法人の常設の喫茶店で月1回開催される。まずは「お話タイム」で寝たきりになることを防ぐため、転倒予防の方法などを学ぶ。「音楽鑑賞タイム」はボランティアによる演奏を聞いたり、参加者全員で歌を楽しむ。「カフェタイム」に鍋料理を囲んで親睦を深めることもあ

カフェdeオレンジサロンのスケジュール

| 時間 | 内容 |
|-------|--|
| 午後2時 | 第1部 オープン・お話タイム  |
| 2時40分 | 第2部 音楽鑑賞タイム  |
| 3時20分 | 第3部 カフェタイム  |
| 4時 | 終了 |

る。

サロンの担当者の同和園在宅部、川内充・統括部長は「当事者だけでなく家族支援にも力を入れている」と話す。

目標は全市町村

こうしたカフェが増えている背景には国の後押しもある。厚生労働省は平成27年に定めた「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」で、介護者の負担軽減を目的とした重点施策の一つに位置づけている。国は25年度から補助を始め、30年度までに市町村の実情に合わせて設置を求めている。厚労省によると、全国の認知症カフェは26年度末時点で655カ所だったが、27年度末には2253カ所に急増している。

世田谷区の場合、初年度に限り1団体10万円を補助。同区によると、コーヒーカップの購入費や告知のためのチラシなどに使われたという。

認知症カフェに詳しい認知症介護研究・研修仙台センターの矢吹知之・主任研修研究員は「地域社会で認知症に関する理解が深まると、認知症の人やその家族が暮らしやすくなる。認知症カフェはそのための学びの場としての機能が期待されている」と話している。

【用語解説】認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

厚生労働省が平成27年に策定した、認知症対策に取り組む国家戦略。認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けられる社会を目指す。認知症の早期診断・早期対応の体制整備や、介護者への支援も盛り込んだ。

障害者団体が都内で集会 相模原事件で訴え



NHK ニュース 2016年10月27日

相模原市の知的障害者施設で起きた殺人事件から3か月を迎え、障害者団体が27日、都内で集会を開き、障害者に対する差別や排除をなくす社会づくりを訴えました。

東京・千代田区で開かれた集会には全国の障害者団体から合わせて600人が参加し、全員で事件の犠牲者に黙とうを捧げました。このあと、それぞれの団体が事件に対する抗議の声をあげ、知的障害者の立場からピープ

ルフアーストジャパンの佐々木信行さんは「障害者差別の解消を目指す法律の施行後に起きた事件で法律が根づいていない。障害者が地域で暮らしていけるよう国に訴えていきましょう」と呼びかけました。

また、精神障害者の立場から、こらえるたいとうの加藤真規子さんは「事件は障害者差別に基づく悪質な犯罪だと社会が強く認識することが必要だ」と訴えました。

集会では、事件の根底には命に優劣をつける優生思想があるとして、「障害者を排除しようとする力に断固反対し、障害者を入所施設ではなく、地域で暮らすことのできる環境整備を強く求めます」などとするアピールを採択しました。

埼玉県から参加した脳性まひがある吉田久美子さんは「事件では被害者の名前が出ないうえ、障害者だからあまり触れないようにする動きもあって、記憶が薄れている気がする。障害者と健常者が理解し合い、分け隔て無い社会ができればいいと思う」と話していました。

県内のいじめ、過去最多 自殺や不登校7件

中日新聞 2016年10月29日 滋賀

文部科学省が27日に発表した昨年度の問題行動調査で、県内の公立学校のいじめ認知

件数は2633件と前年度より1136件増え、調査を始めた1985年度以降最多とな



った。県教委の担当者は「教員の意識が高まり、軽微な事案も拾い上げた結果」とみている。

調査は、昨年四月一日～今年三月三十一日まで、公立小中高校、特別支援学校三百九十五校で実施された。

学校別の認知件数は小学校が最も多く、前年度比八百八十六件増の千七百二十四件、中学校は二百六十五件増の七百七十件に上った。一方、高校は十二件減の百二十五件、特別支援学校は三件減の十四件だった。認知したうち、92・1%は解消しているという。

自殺や不登校など重大事態に発展したケースは七件。県教委によると、二〇一三年九月のいじめ防止対策推進法施行後、昨年度までに十八件に上った。

いじめ発見のきっかけは「本人からの訴え」が29・4%と最も多く、全国平均の17・1%より上回った。「当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え」は24・5%で、全国平均の11・1%の二倍を超えた。全国的には、アンケートなど学校の取り組みで分かるケースが半数を占めたが、県内では8・1%にとどまった。

いじめの内容は「冷やかす、からかい、言葉の脅し」など言葉によるいじめが六～七割を占め、「軽くたたかれる、蹴られる」などが続いた。高校ではパソコンや携帯電話でひぼう、中傷をされた割合が二割を超えた。

調査結果について、県教委の担当者は「今後は、各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づく取り組みの実施状況を確認し、見直しの働き掛けを行い、いじめの未然防止に努めたい」と話している。

また、生徒同士や教員に対する暴力行為は六百四十一件で、前年度より四十六件減少。不登校は小学校が前年度比二十三人増の四百十八人、中学校は十六人増の千五十九人になった。高校は、四十四人減の六百八十一人だった。

高校の中途退学者数は、前年度比八十五人減の二百二十九人になった。最近の傾向として、発達障害のある生徒らが高校進学するケースが増えているが、県教委は、こうした生徒らへの支援に力を入れるなどした成果と分析している。（浅井弘美）

<不登校の現場から>居場所を求めて相談増加

河北新報 2016年10月29日



授業で対人関係の大切さを学ぶ生徒。室内には笑い声があふれる＝仙台市太白区のフリースクールだ

文部科学省が27日公表した2015年度問題行動調査で、いじめなどにより学校に通えなくなった県内の小中学生数は2839人に達した。全体に占める割合は全国ワースト2位で、新たな居場所を探す子どもや家族が増えている。学習支援や学校への復帰を促す取り組みなど教育現場の模索を報告する。（報道部・鈴木俊平）

◎模索する教育現場（上）もう一つの学校

<中高生50人在籍>

私服姿の中高生約20人で埋まった教室に、和やかな笑い声があふれる。授業は午前10時から午後3時まで。主要教科に加え、人と人との関わりなども学ぶ「もう一つの学校」だ。

2004年に設立された仙台市太白区のフリースクールだ。教員資格を持った職員

3人が常駐し、不登校になった中高生約50人が通う。高卒認定試験、介護などの資格取得を支援するほか、ボランティア活動も積極的に実施し、子どもの自立をサポートする。

ある男子生徒（16）は集団行動が苦手なため、中学1年から不登校となった。4年前、利府町から仙台市内に引っ越し、だいとに出会った。男子は「目標を後押ししてくれる自由な雰囲気がいい」と話し、今は毎日休まず「学校」に通う。

だいとには昨年、500件以上の相談が寄せられ、うち約200件はいじめを経験した子どもの保護者からだった。いじめによる児童生徒の自殺が全国的に相次ぐなどしたため、問い合わせは増加傾向にある。

依然として「不登校は恥ずかしい」と悩んで相談できずに孤立し、支援施設などを見つけれずにいるケースも少なくないという。

<他県から移住も>

関係者によると、仙台市内にあるフリースクールは10カ所ほど。支援施設が乏しい東北各地から、新たな学びの場を求めてたどり着く親子もいる。

北東北の小学校で不登校となった男子生徒（13）は4月、だいとに通うため父（47）、母（45）の家族3人で仙台市内に移住した。父は1時間以上かけて勤務先に遠距離通勤する。

男子には軽度の発達障害があるが、学力的に問題はない。支援学級に入った小学校で、普通学級の児童からいじめを受けて体調不良となり、休みがちになった。

父親は「1年以上探したが、近くで希望に合う施設は見つからなかった。子どもが楽しそうに通う姿を見ると、移住の決断をして良かった」とかみしめる。

<受け入れ先不足>

今回の問題行動調査で明らかになった県内の不登校者は小学校1043人、中学校2719人。学校の授業に出なくても「保健室登校」などで出席扱いになっている児童生徒もおり、実態は公表された数値より高いとみられる。

だいとの石川昌征代表は「受け入れ先は圧倒的に不足している。不登校に直面する子どもたちを支える土壌をつくるには、社会全体で問題を認識し理解することが欠かせない」と訴える。

子どもの不登校「長期化」 90日以上が6割に



NHK ニュース 2016年10月27日

昨年度、全国の小中学校で不登校になっている子どもは12万6000人を超え、中でも90日以上休んでいる子どもが全体の6割に上るなど、不登校が長期化している実態が文部科学省の調査で初めて明らかになりました。

文部科学省は、病気と経済的な理由を除いて30日以上学校を欠席した不登校の子ども数について昨年度の結果を公表しました。

それによりますと、不登校の子どもは、小学生が2万7581人、中学生が9万8428人と合わせて12万6009人で、3年連続で増加しました。すべての児童生徒に占める不登校の子ども割合は1.26%で、今の方法で調査を始めた平成3年度以降、最も高くなっています。

さらに、今回は不登校の子どもたちがどのくらい学校を休んでいるか、具体的に調べました。それによりますと、年間90日以上と長期間欠席した子どもは7万2324人と全体の57.4%を占めました。このうち、「出席日数が10日以下」は8862人、「すべ

て欠席」だったのは4402人に上ったということです。

文部科学省は、不登校が長期化している実態が初めて明らかになったとして、引き続き、分析を進めたいとしています。

専門家「子どもを取り巻く状況大きく変化」

不登校の子どもたちの実態に詳しい東京理科大学の八並光俊教授は、最近の不登校の背景には、「『学校に行きたくない』という子ども本人の心の問題だけではなく、家庭の貧困や虐待など子どもを取り巻く社会や家庭の状況が大きく変化したことが影響している」と指摘しています。そのうえで、「対人関係や家庭の状況など、子どもが置かれている現状について実態把握をしっかりと行ったうえで、教育以外の福祉や医療的な観点から、家庭を含めた支援を行うなど複眼的な視点で支援していくことが必要だ」と話しています。

小学生の暴力行為 過去最多に

この調査で、文部科学省は教師や同級生などに対する子どもの暴力行為についても調べました。その結果、中学生と高校生が減少傾向にある一方、小学生は年々増え続け、昨年度は1万7137件と、前の年度より5000件以上増え、調査を始めた平成9年度以降、最も多くなっています。

内訳を見ますと、同級生をたたいたり、蹴ったりするなど、子どもどうしの暴力行為が最も多く1万1395件、次いで、教員に対するものが2941件、校舎の窓ガラスを割るなどの器物損壊が2475件などとなっています。

また、暴力行為をした子どもを学年別に見ますと、最も多いのは6年生でしたが、前の年度と比較した場合、1年生が1.76倍、2年生が1.77倍、それぞれ増えるなど、低学年ほど増加傾向にあります。

文部科学省は「いじめの認知に力を入れたのに伴って、暴力行為についても軽微な事案が報告された可能性が考えられる。また、家庭や学校が原因で何らかのストレスを抱え、言葉でなく攻撃的になってしまう子どもが増えていることも考えられるので、引き続き、背景を分析したい」と話しています。

社会福祉士と精神保健福祉士の国試対策講座 無料で動画配信

福祉新聞 2016年10月27日 編集部

2017年1月 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験対応
受験対策web講座 特設サイト

主権
NPO法人 日本社会福祉士養成協会 (しやうきよう)
NPO法人 日本精神保健福祉士養成協会 (せいしやうきよう)

社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験
受験対策web講座
2017年1月試験対応

第20回社会福祉士国家試験まで201日
51時間10分44秒です。
第19回精神保健福祉士国家試験まで
199日19時間33分06秒です。

【スマートフォン版】でみる

国家試験受験対策web講座

国家試験受験対策web講座って？
講義映像の配信を開始しました！
講座テキストは、左の【講座テキストの申し込み】からお申し込み下さい。
FAX申込書はこちら → web講座FAX申込書
※【ご利用上の注意】をよく読んで下さい、お申し込みください。
※web講座テキストは、申込期で入金確認後に順次発送します。
※入金確認後到着まで2週間程度かかる場合がありますので、お早めにお申し込みください。
※全国統一模擬試験と同時に「web講座テキスト」を購入された方は、同じテキストですので、購入する必要はありません。

00019921

★ 全科目の講義映像は、無料で見放題！！

社会協twitter
#cswjken
@cswjken
【web講座！】本日福祉新聞さんにもよっと世界的な広告を掲載しました。社会福祉士国家試験まであと100日です！\n\n#cswjken #PSWJken
#pswjken
@pswjken
@pswjken

日本社会福祉士養成校協会と日本精神保健福祉士養成校協会はこのほど、2017年1月の社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験対策テキストを発行した。両協会がインターネットで無料配信している講義を見ながら、必要なポイントを効率よく学ぶことができる。

テキストは社会福祉士用が全350ページ、精神保健福祉士用が全326ページで、いずれも1冊3900円（送料・税込み）。映像は各分野のプロが講義し、1科目90分。すべて撮り下ろしだという。

販売の受け付けは12月21日まで。詳細は専用サイト (<http://www.jascsw.jp/webkouza/>) へ。

アスリート

中日新聞 2016年10月27日

「ものすごいラストスパート。先頭争いをしている選手のように」。会場のアナウンサーは彼をそう形容した。42キロ以上を走って来たとは思えない全力疾走に観客も目を見張った。でもその中に彼が障害者だと知る人はどれだけいただろう。

音信之介さん（25）は知的障害者のハーフマラソン世界選手権の日本代表に選ばれた実力者。二十三日の金沢マラソンでは2時間46分26秒の好記録を残した。大会前には「障害者でもこれだけできるんだとアピールしたい」。有言実行だった。

音さんの記録は金沢マラソンに出場した県勢では九番目。「健常者にはかなわないけれど、ハンディを乗り越えて頑張る姿が感動を呼ぶ」。そんな色眼鏡で障害者のスポーツを見ていた自分はまだまだ勉強不足だと思う。（山内晴信）

日本発祥 携帯電話の“絵文字” NY近代美術館に NHK ニュース 2016年10月27日



携帯電話やスマートフォンでメールなどをやり取りする際に使われ、今では世界中に広まっている日本が発祥の「絵文字」が、美術作品としてアメリカのニューヨーク近代美術館のコレクションに加えられ、美術館は「デザインの力で、人々のコミュニケーションの方法を変えた」と評価しています。

アメリカ・ニューヨークのマンハッタン中心部にあるMoMA＝ニューヨーク近代美術館は、19世紀の絵画から現代美術まで15万点を超える作品を所蔵する世界有数の美術館です。このコレクションに、日本が発祥で、1999年に初めて携帯電話に導入された

「笑顔」や「泣き顔」など176種類の絵文字が、このほど美術作品として加えられました。

絵文字は、NTTドコモでiモードの開発に関わった栗田穰崇さんが生みの親とされ、限られた文字数の中で感情を表現する手段として、またたく間に広まりました。その後改良が重ねられてスマートフォンでも使われるようになり、去年、イギリスのオックスフォード辞典が、「今年という言葉」として「喜びの涙を流す顔」の「emoji」を選ぶなど、世界中で定着しています。

ニューヨーク近代美術館は、「デザインの力で人々のコミュニケーションの方法を変えた」と評価しています。コレクションに加えられた絵文字は、12月10日から印刷された状態やモニターの画面に映しだされた状態で展示されるということです。

障害者配慮の事業所 認定

読売新聞 2016年10月28日 山梨



笛吹市の映画館「テアトル石和」の入り口には、「やまなし心のバリアフリー宣言事業所」の認定証が貼られている

◆県が推進 サービス、雇用広がる

障害者に配慮したサービスを提供したり、障害者を積極的に雇用したりしている事業所を、「やまなし心のバリアフリー宣言事業所」として登録する事業を県が進めている。障害者が生活しやすい建物や道路を作るなどのハード面の改善ではなく、偏見をなくしたり、利用しや

すい制度を作ったりすることで、障害者に対する「障壁（バリア）」のない社会を目指す。（横山耕太郎）

県は4月、改正した県障害者幸住条例を施行した。改正前の条例では、車いす利用者のために段差を解消するなど、ハード面の改善に取り組むことに重点が置かれていた。だが、改正した条例には、障害者に向けられるまなざしや様々な制度など、ソフト面の改善に取り組むことが盛り込まれた。

条例改正を受け、県は4月から、心のバリアフリーを進める事業所からの認定申請を受け付けている。認定は「障害のある社員や顧客に、障害を理由とした差別をしない」「障害者に対し合理的な配慮をするよう努める」などの宣言に同意することが条件だ。審査した上で認定証を交付し、事業所名を県のホームページで公表する。現在、バス会社やスーパーなど203事業所が認定されている。

認定された事業所は、認定証をオフィスに貼るなどして、心のバリアフリー推進に取り組んでいることをアピールできる。認定は無料だ。

笛吹市の映画館「テアトル石和」は、障害者の入場を無料にする映画イベントを企画したり、障害者にイベント情報を知らせるボードを設置したりしている取り組みが評価され、認定事業所となった。支配人の有泉忍さん（49）によると、映画館には、車いすを使う人や視覚障害者も訪れる。有泉さんは「障害者への理解を進めるために、今後は、障害者をテーマにした映画の上映も積極的に行いたい」と意気込んでいる。

県障害福祉課では、県内の事業所に、認定の申請を呼びかけている。

問い合わせは同課（055・223・1460）へ。

◆県障害者福祉協会 竹内正直理事長 自然な助け合い「まだまだ」

県内14の障害者団体が所属する県障害者福祉協会の竹内正直理事長（86）は、「ハード面の整備は進んできたが、障害者への理解はまだまだ不十分だ」と、心のバリアフリーの必要性を訴える。

県が2014年、障害者165人に行ったアンケートでは、交通機関や職場など、様々な場面で差別を感じている実態が浮き彫りになった。アンケートでは、「バスで障害者手帳を出して割引を受ける時に時間がかかり、運転手に嫌な態度を取られた」「職場で筆談を依

頼したら上司が嫌な顔をした」「幼稚な言葉で対応された」などの回答が寄せられた。

現在の社会を良くするために、竹内さんは「障害者と健常者が自然と助け合えることが大切だ」と指摘する。8月には、都内の地下鉄駅のホームから視覚障害者の男性が転落し、電車にはねられて死亡する事故が発生。竹内さんは、「近くにいた人が声をかければ、事故は防げたかもしれない。普段から声をかけ合うなど、障害者と自然に接してほしい」と言葉に力を込める。

障害者への理解が進むきっかけになると、竹内さんが期待しているのは、2020年東京パラリンピックだ。竹内さんは「活躍する選手を見て、『障害は特別なことではない』と実感できる好機になる」と期待している。

iPS 移植、国が審査 世界初、他人の細胞申請 共同通信 2016年10月27日

他人の人工多能性幹細胞（iPS細胞）から作った網膜の細胞を患者に移植する世界初の臨床研究について、神戸市立医療センター中央市民病院などのチームが、実施計画を厚生労働省に申請したことが27日、分かった。事前に必要な審査の最終段階で、順調に進めば年内にも承認され、来年前半の手術が可能になる見通し。

移植は、視野がゆがみ視力が低下する「滲出型加齢黄斑変性」を発症し、薬が効かない重症の患者が対象。網膜の細胞を含んだ溶液を、目に注入して移植する。

気になるあの子へ思い届け！ 御堂筋線にハートのつり輪 朝日新聞 2016年10月27日 大阪市営地下鉄御堂筋線の車両に1本だけ下がっているハート形のつり手=市交通局提供



大阪市営地下鉄の御堂筋線に、ユニークなつり手の電車が1編成（10両）だけ走っている。期間は25日から1年間の予定で、いつ出会えるかは秘密という。製薬会社の広告企画。つり手約660本に「愛は…爆発や！」などと愛にまつわるひと言が書かれており、うち1本のみ、握る部分がピンクのハート形だ。



大阪府出身で元お笑い芸人の男性社長（42）が発案。「気になるあの子に思いを伝えるきっかけになれば」と話す。つり手をつかめばハートもつかめる？

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

